

ロベール・デュソーとエレヌ・コヴァッティ

夫婦ともに作曲家だったロベール・デュソーとエレヌ・コヴァッティ。その一人娘である名ピアノ教師テレーズ・デュソーは、両親の音楽的遺産の散逸を防ぐために膨大なスコア等を整理したが、その作業を手伝ったのがトゥールーズ音楽院でテレーズに師事したイニャキ・エンシーナ・オヨンだった。彼はアドリアナ・ゴンサレスとともに、テレーズの両親であるロベール・デュソーとエレヌ・コヴァッティによる 20 世紀初頭フランスの埋もれた歌曲のアルバムをリリースした。

ロベール・デュソーの作品は交響曲やオペラから室内楽まで多岐にわたるが、数はそれほど多くない。さらに歌曲の書かれた時期となると 20 代の 10 年ほどであった。作品 10 は 1927 年の出版。「心が目覚めるとき」は、デュソーのナイーブな内面を表現しており、母に捧げられた。「機会」は、画家のルネ＝マリー・キャスタンに献呈された。キャスタンは 1924 年の絵画部門のローマ賞受賞者で、同年の作曲部門の受賞者がデュソーだった。作品 2 の 2 曲は 1916 年、デュソーが 20 歳の時の作。「神託」は、エジプトの神託になぞらえて恋の予感を歌う。「さようなら」は自分の許を去っていく恋人を見送る歌。作品 5 の「君の涙に捧ぐ」は、デュソーがパリ音楽院に入学した 1920 年の作。作曲の教師だったアンリ・ビュセに献呈された。「エレジー」は歌詞を伴わないヴォカリーズ(母音唱法)による曲。

エレヌ・コヴァッティの作品はデュソーよりさらに少なく、作曲の正確な日付も判然としない。「サアディの薔薇」は連作歌曲《ダフネ》所収。19 世紀フランス・ロマン主義の女流詩人マルスリーヌ・デボルド・ヴァルモールの詩による。濃厚な恋のロマンチズムが漂う「酔いしれたい」と「うんと言ったよ」は、水彩画家でもあった 20 世紀初頭の女流作家マルグリット・ブルナ＝プロヴァンの詩。

I. アルベニスの歌曲

イサーク・アルベニスは、イベリア半島出身の作曲家の中では、おそらく演奏機会がもっとも多いが、歌曲は意外と知られていない。

海軍士官として世界中を巡ったフランスの作家ピエール・ロティのテキストによる《2 つの散文》は、1897 年の作。「夕暮れ」は花の香りに満ちた 6 月の宵、「悲しみ」は少年期の終わりに訪れる言い知れぬ悲哀を歌う。

19 世紀フランスの歴史家シャルル・コスタ・ド・ボールガールのテキストによる「それは愛である」は晩年の作で、愛の移りゆくさまを描いたロマンチックな歌曲。ショーソン夫人に捧げられた。

1888 年に作曲された全 5 曲からなる《ベッケルの詩》は、20 代後半の作。不遇な境遇で夭逝したスペインの抒情詩人グスタボ・アドルフォ・ベッケルの詩に作曲した。爽やかな風とともに自然の抒情を歌う「そよ風の口づけ」、サロンの片隅に置かれたハーブに想像力がはばたく「広間の片隅に」、恋人のメランコリックな眼差しに愛情を注ぐ「この胸に君が頭を傾けるとき」をお届けする。

《4 つの歌》は 1909 年、アルベニスの死後に出版された遺作。パトロンでもあった 5 代男爵フランシス・バーデット卿の英詩による。全 12 曲の連作となる予定だったが、腎臓病を患い、果たせず亡くなった。健康を失った悲しみを歌う「病と健康」、この世ならぬ楽園を夢想する「楽園を取り戻す」、そして奇しくも辞世の歌となった「後退」をお届けする。

E. グラナドスの歌曲

「悲しみにくれるマハ」の 3 曲は、1914 年に作曲された全 12 曲からなる歌曲集《昔風の粋なスペイン歌曲集》所収。グラナドスは 1911 年にピアノ組曲《ゴイエスカス(ゴヤ風の)》を作曲し、翌年これをオペラに改作。台本はバレンシアの作家フェルナンド・ペリケが担当した。その後、そこからマハをモチーフにした 3 曲の「Tonadilla」(スペインの民衆歌曲)が生まれた。ちなみに画家ゴヤによって描かれたマハとは「小粋な娘」という意味のスペイン語で、人名ではない。

グラナドスが次に手掛けたのは、全 7 曲からなる《愛の歌曲集》。こちらは 16~17 世紀の詩を用い、より古風な雰囲気を感じている。「泣いていたのはかの乙女」は、スペインの大詩人ルイス・デ・ゴンゴラの詩による。「泣かないで、可愛い瞳」は、ロペ・デ・ベガの詩による。同詩はフーゴ・ヴォルフ

も《スペイン歌曲集》で取り上げた。「僕の恵みよ」の作詞者は不詳。歌曲集の最後を飾るにふさわしい情緒あふれる美しい曲。

F.オブラドルスの歌曲

スペイン古謡から採られた《スペイン古典歌曲集》(全4集)は、20世紀前半に活動したカタルーニャの作曲家フェルナンド・オブラドルスの代表作。「第一弦のないギター」は第3集所収。コミカルな歌詞なのに、妙に落ち着いている不思議な歌。「三人のムーア娘」も第3集所収。謎めいた寓意に満ちたような歌詞だが、曲調はどこか物悲しい。「松の森の中で」はしっとりとした美しい曲。